

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもひろばポーポーの木かいた		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月6日	～	令和6年 11月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月6日	～	令和6年 11月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別活動、集団活動等のマンネリ化を防ぎ、楽しく活動しながら色々な経験が積めるよう取り組んでいる。 ・様々な年代や特性の利用者がいるがお互い認め合い、過ごしている。	責任者のみの考えではなく、従業者や利用者の意見や社内の他事業所の活動も参考にし、取り入れて活動内容を決めている。また活動を月ごとの担当制にすることで従業者一人一人のアイデアで色々な活動を行っている。	外出活動や社会科見学等の活動数を増やし、活動の幅を広げていく。活動の進め方や取り組み等、全員が楽しめるような内容を準備する。
2	自立に向けた作業を取り入れ、自分で取り組むことの意識を深めたり、自分でできることを増やしていく。	毎日、一人一人役割分担を行い、身の回りのことを中心に自分でできることを増やしていく。できることに関しては一つ一つの精度をあげていけるよう細かい部分にまで注意して取り組む。	成功体験を積みながら自信を付ける。取り組む内容や意味を理解して行えるようになり、自発的に取り組めるように仲介する。
3	他者と関わりながら非認知能力を養えるような活動や遊びを取り入れる。	活動の目的や目標を意識して取り組む。活動やルール遊びを通じて、集団行動や他者への気持ちを考え行動すること、忍耐力、協力、目標に向かってやり抜く力、自制心、感謝する心、他者に相談できる力等、生きていく力を育む。	自分の課題を把握して、状況に応じてどのように行動すればよいか等、考えて行動できるように支援する。できた部分の成果が見えにくい為、評価していることをわかりやすく伝え、能力の定着を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職務に必要な知識、関連業務に関する知識について、従業者のスキルアップが必要である。	従業者一人一人が利用者との関わり方に自信をもって取り組めるようになる。色々なスキルやアプローチの方法等を身に付け、色々な状況に対応することができるようになる。	児童発達支援管理責任者を中心に従業者が普段の支援を振り返り、自己分析の中で自分の強みや弱みを把握し、研修等を通じて知識を深め、支援のスキルを身に付ける。
2	一人一人の特性に応じた活動内容や環境整備、より専門的な療育(個別療育)を強化していくこと。	利用者様によって活動内容が難しかったり、物足りなかったり等、調整の難しさがある。また個別療育を充実させていく為の専門職員が不在である。	一つ一つの活動について手順書を準備し、一人一人の特性に合わせた活動内容となるよう調整する。個別療育の強化のため、専門職員を配置する。
3	幅広く活動を行える体制を整えること。	特に要望の多い外出活動について、現状人員体制が整えられるような環境整備の難しさがある。	十分な人員配置、人員編成を行うことができるよう従業者の体制を検討する。利用者の方が落ち着いて行動することができるよう事前のシミュレーションによる行動把握等の準備を行う。